カラーユニバーサルデザイン普及キャラバン隊事業

カラーユニバーサルデザイン推進支援講座 2021

アンケート集計結果報告

©NPO 人にやさしい色づかいをすすめる会 2022/08/15

カラーユニバーサルデザイン普及キャラバン隊事業（2021 年度 愛知県委託事業）

カラーユニバーサルデザイン推進支援講座　アンケート

今後の活動改善のためアンケートにご協力くださいますようお願いいたします。差し支えのない範囲でけっこうですので、以下の質問にお答えください。

1. あなたの所属部署はどちらですか。

（　　）

2. あなたは色覚について関心がありますか（一つに☑を入れてください）。

□色弱や色覚（色の見え方）の多様性について、これまであまり意識したことがなかった。
□所属する部署や関係部署に色弱の（あるいは色弱の可能性のある）同僚がいるため、以前から関心があった。
□自分自身また身近な親族等が色弱であるため、以前から関心があった。
□その他（　　）

3. 講義―色覚の多様性とカラーユニバーサルデザインの知識、ワークショップ―色弱模擬体験・CUD 改善体験・シート記入とシェアの時間は、あなたにとって有益でしたか（一つ☑を入れてください）。

□ ひじょうに有益だった　□ まあまあ有益だった □ 普通 □ あまり有益ではなかった
□ 意味がなかった　□ その他（　　）

4. 講義―色覚の多様性とカラーユニバーサルデザインの知識、ワークショップ―色弱模擬体験・CUD 改善体験・シート記入とシェアの時間は、適切でしたか（一つに☑を入れてください）。

5. その他の感想（本日特に印象に残ったこと、疑問をもたれたこと、今後どのような講座があればよいか等、自由にお書きください。）

ご協力ありがとうございました。

アンケート実施および集計

講座開始時に参加者全員にアンケート用紙を資料とともに配付，講座終了時に5～10分程度の時間を取って記入してもらい当日回収した。全体の回収率は89%(全参加者153人のうち137人が提出)。会場別の回答者人数は岡崎会場10人(参加者10人)，豊田会場43人(参加者58人)，西尾会場35人(参加者35人)，北名古屋会場21人(参加者22人)，犬山会場28人(参加者28人)であった。Google の Forms でデータ化し，会場ごとのフォームをまとめた全集計結果は，本事業の実施報告書に添付資料として2022年3月に愛知県に提出した。

このアンケート集計結果報告は，当会のウェブサイト公開用に改めて編集したものである(2022/08/15作成)。ウェブサイトに掲載している内容(イベント情報＞報告＞自治体との協働)に即し，アンケートの質問項目のうち講座の有用性を問う第3項目と，感想を自由に記述してもらう第5項目の2つのみの報告となっている。

本講座の評価

アンケート第3項目は，「講義―色覚の多様性とカラーユニバーサルデザインの知識、ワークショップ―色弱模擬体験・CUD改善体験・シート記入とシェアの時間は、あなたにとって有益でしたか」と問い，回答として「ひじょうに有益だった」，「まあまあ有益だった」，「普通」，「あまり有益ではなかった」，「意味がなかった」と「その他」の6つの選択肢を設けた。アンケート全回答者137人中116人(84.7%)が「ひじょうに有益だった」，19人(13.9%)が「まあまあ有益だった」，1人(0.7%)が「普通」，1人(0.7%)が「その他」と回答，それ以外は0%であった。「その他」の内容は「WEB参加だったため体験を受けていない」(豊田会場)。

表1 アンケート第3項目の回答集計結果

3. 講義―色覚の多様性とカラーユニバーサルデザインの知識、ワークショップ―色弱模擬体験・CUD改善体験・シート記入とシェアの時間は、あなたにとって有益でしたか

	岡崎		豊田		西尾		北名古屋		犬山		全体	
回答選択肢	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
ひじょうに有益だった	9	90%	35	81%	31	89%	18	86%	23	82%	116	84.7%
まあまあ有益だった	1	10%	7	16%	4	11%	3	14%	4	14%	19	13.9%
普通	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4%	1	0.7%
あまり有益ではなかった	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
意味がなかった	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
その他	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	1	0.7%
計	10		43		35		21		28		137	

その他の回答(豊田市)： WEB参加だったため体験を受けていない

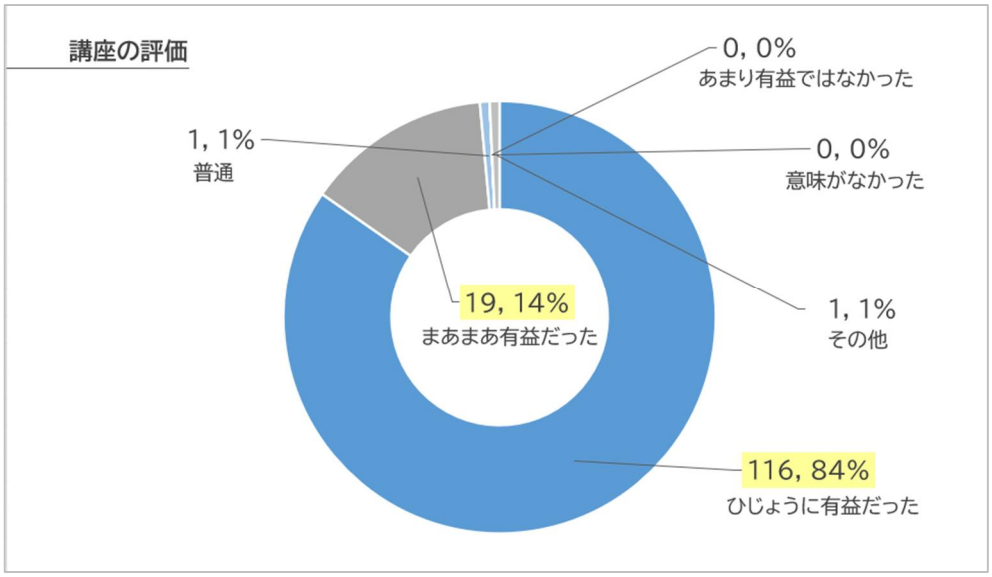

図1 講義とワークはあなたにとって有益であったか （2021CUD 推進講座の評価）

参考までに同じキャラバン隊事業の第一弾として実施した 2019 年の「学校におけるカラーユニバーサル推進支援講座」のアンケート結果と比較してみたところ，「ひじょうに有益だった」と回答した割合が今回の方が高いことがわかった。ちなみに 2019 年は回答者 76 人中，55 人（72%）が「ひじょうに有益だった」，16 人（21%）が「まあまあ有益だった」，5 人（7%）が「普通」，それ以外は 0%だった。評価が上がった要因として、教材の充実、講座実施者のスキル向上の他、色弱当事者スタッフをP型とD型の二人体制とした点にあるのではないかと考えられる。自分たちが作成した印刷物が色弱者にはどう見えるのか、当事者スタッフと熱心に語り合う姿がどの会場でも見られた。

自由記述集

アンケート最終設問である第5項目は，「その他の感想（本日特に印象に残ったこと、疑問をもたれたこと、今後どのような講座があればよいか等、自由にお書きください）」とした。以下，ほぼすべての自由記述を掲載する（明らかな誤字，脱字や語法の誤りのみ修正，掲載順序不同）。

・色覚に様々なタイプがあることを知らなかったため、非常に有意義なものとなった。
・色弱の方の割合の多さに驚いた。普段から注意箇所として、赤い文字を使うことが多かったので、今後の使い方に気をつけようと思った。
・まだ普及されていないところへ普及推進をお願いします。もっと教育現場で普及されるといいと思いました。
・バリアントールを使用して、見え方を体験できてよかった。良い例を紹介してほしい。実際に岡崎市のチラシをワークにご準備いただけてよかった。
・色味に気をつけるだけでない、様々な改善方法を知ることができてよかった。制作物には制約があるものも多いため、できる解決法を模索し、改善していきたい。
・男性が色に弱い割合が多いことは知っていましたが、思っていたより多いことを知りました。市民向けに作る資料では特に今後気をつけていきたいと思いました。
・色の見え方について、これまであまり意識したことがなかったので、今回のワークショップで実際に体験をして勉強ができて良かったです。
・バリアントールなどを使って色弱のかたの見え方を体験できてよかった。ワークもあったので、今後同じようなものを作るとき、意識できるようになると思います。また、思っていたよりも、色の見えにくいかたが多くいることを知り、今後、より意識していかなければいけないと感じました。
・色弱模擬体験をしたことで、自分が想像していた以上に色の区別がしにくいことがわかりました。今後、印刷物を作る際には、今日学んだカラーユニバーサルデザインの知識をいかして、制作したいと思います。
・バリアントールの効果を参加者が実感していた。赤が黒く見えることのインパクトが強く，赤を否定する傾向が強くなることが懸念されるので，C型の人も含め「誰もが見やすい」という観点が重要だと感じました。今回このような研修会を開催していただき，市役所内の CUD 普及の第一歩となりました。
・赤がほぼ黒になってしまうというのは意外なことで，今後の色づかいに配慮が必要と思われた。
・普段色覚等についてあまり意識してなかったが，今後庁舎のサイン等を設置する上で，文字の白抜きをすることや，記号等，形状を変えることで，誰に対しても見やすいものにできるように考えていくきっかけになりました。
・CUD を意識して配色することの難しさを痛感しました。ツールが必須です。また配色以外の工夫は取り入れやすいため，積極的に取り入れたい。庁内に印刷物等のチェックができる場があるといいです。
・当課の冊子に見分けづらい配色がされている箇所に気づくことができました。冊子増刷のタイミングだったため，業者にCUDを取り入れることを依頼できます。改善のきっかけとなりました。
・アプリがあって簡単にチェックすることができることが分かってよかった。また作成時に色番号を入力することによって数字として業者に依頼できる事もわかった。これだけ男性職員のいる職場では，必ず 20 人に 1 人色弱の方がいるはずなのに，誰もそのような話をしないのは，本人にとって「隠したい事」であり，その思いをくんだ行動をとりたいと思った。
・実際に講義を受け体験したことで，どの色を使えば配慮になっているかよく分かりました。チェッカーの紹介も良かったです。アプリで確認してデザインを改善していこうと思いました。コントラストをはっきりさせるのも大事。紙の色を分けるのは難しいので言葉で色を書く。
・色というのは数値化できない感覚なので，配慮の重要性は分かったが，実際に配慮した資料をつくるのはかなり難し

いと感じた。そのような中で，スマホアプリはとても汎用性が高く，紹介していただけたことはとても良かったと思う。
・色弱者には色の濃淡や明暗で使い分けるとよいと説明がありましたが，高齢者にははっきりした色がよいであったり，紫が見えづらかったりがあると思うのですが，両者に適したものが冊子「推奨配色セット」に載っているという認識でよいでしょうか。とても勉強になる研修でした。
・見え方が全く違っていて驚きました。背景色と文字色によっては字が認識できないことがわかったので，気をつけていきたいです。
・当事者の話がきけて大変参考になりました。思っていたよりも多くの色が同じような色に見えてしまうことが話と体験で分かりました。自分の課から発送するものは UD 化されていることもあり，見やすいものとなっていた。ただ複数課から送られた時に違いがあるか不安になりました。
・信号の色が見分けにくいと知り驚きました。トイレの男女の色分けも・・・。リモコンに赤・青・・・ボタンの字が追加されているなど，日常のあらゆる場面で関わりがあることがよくわかりました。
・今まで色覚について意識することは全くありませんでしたが，今日の研修から意識していきたいと思います。色を多用しない場合でもハッチングを活用していきたいです。
・チラシ等で強調したい文字は見分けがしやすい青や黄又はふちどり等使って過度な色づかいは気をつけないといけないと思った。
・効果的に見分ける 5 色を選ぶのが難しかった。こちらが良いと思うデザイン，色でも当事者にはそれほどでもない（分かりづらい）ことが改めて分かった。
・実際に気づきができた今回のような講座が増えていくと良いと思いました。
・色を見分けられることだけに注意して選ぶと，あまり見映えがしない印象を受けました。どうすれば両立できるかが難しいと思いました。
・ピンクと黄色の表紙の冊子を作っていたが，D 型の視点ではほとんど同じような色味に見えた。色のシミュレーションを活用して，用いる色に配慮したい。
・バリアントールを使って実際に色紙やチラシを見るのは初めてだったので，色の違い（見え方の違い）にびっくりでした。これからの制作物に生かせそうです。
・赤と緑が見えにくいということは聞いたことがあったが，実際に体験してみると，それ以外に見えづらい配色が多くあることがわかりました。色だけでなく他の方法を活用して誰が見ても見えやすいチラシやポスター等を作成していきたい。
・色の見え方については，区別ができるかどうかがとても大切であることは，普通に生活していて意識できていなかったため，良い気付きになりました。また持ち込みのチラシについては，おおよそ良い評価を頂けて良かったです。今後はさらに見やすく意図の伝わりやすいチラシの作成方法についての講座があれば，ぜひ参加したいです。
・体験できたのがとてもよかった。アプリやモノクロ印刷などで確認する習慣をつけたいと思いました。
・体験型の気づきがあったので非常によかった。
・スライドの内容がテキストのどの位置にかかれているか補足説明があるとありがたいです。ページをさがしている間に，ききそびれてしまいました。高齢者，白内障の人への色の配慮をきけるとうれしいです。
・色覚異常の方に実際の見えについて伺えて良かったです。土木系に特化した研修があると良い。
・どんな色の組みあわせが有益なのか，作成する印刷物や PDF 等にあわせて考えていきたい。
・とても有益だと感じたので，もう少し時間をかけて学び体験できるといいです。
・当課では，年度ごと，検査の種類ごとに用紙の色を変えた検査依頼者への案内チラシを作成している。依頼者がチラシを取り違えない様に，色を分けていたが，色弱の方にとって区別しにくい色を使用していたので今後のチラシ作成を注意したいと感じた。
・一般の人にとって見やすくても，色弱の人にとってはとても見にくいということがよくわかった。自分の業務で改善した方がいいものがみつかった。
・赤と黒が同色に見えること，青が見やすいことが大きな気付きだった。今後発行する刊行物に反映していきたい。
・色分けよりも濃淡の模様で区別すると，だれもがわかりやすいということがよくわかりました。
・ワークを行ったことで意識というか，当事者の方の気持ちが少しわかった気がします。色の違いはもちろんですが，太字，アンダーバー，文字の大きさで強弱をつけることも有効であると思いました。
・CUD 対応するにあたり，様々な手段・方法があるため，目的に応じて変更する必要性を感じた。色弱の方のみを対象にしたものはあまりないため，相手方のニーズを汲み取り，最小の手間で最大の効果を得られるよう，もっと色々な知識を修得しておくべきと思いました（ベターな手法を見つけるため）。
・パワポのスライドがイスの向き的にも会場の広さ的にも見にくかった。
・当事者の話に説得力があった。プログラムに組み込まれていてよかった。
・色弱の見え方体験だけでなく，当事者の方の話を聞けて興

味深かった。現在，市民向けの仕事をしていないが，内部資料においても，色に配慮したり，濃淡による見やすい資料作りを心がけていきたい。口頭説明の機会があるときは，色に頼らない説明を心がけていきたい。この研修を機に，CUD を自分ごととして考えられるようになり有意義だった。

・赤字で強調していてもわからず，強調する方法をいくつか学べてよかった。青と黄がわかりやすいことがわかってよかった。

・障がい者差別解消法の合理的配慮に関わる部分になるため、自分自身勉強になったし、市としても本研修で学んだことを周知啓発していく必要があると感じた。

・白黒印刷でも伝わる表現、という視点を持っていませんでした。資料作成の際に、黒字でなく赤字や青字にすることで強調を表すことがあったので、下線等も使用するように気を付けたいと思いました。

・カラーユニバーサルデザインを意識することの大切は重々承知しているが、一方で自所属の啓発チラシを他と差別化するに当たり、当該チラシの色彩は大きな要因と考えております。そのため、カラーユニバーサルデザインを踏まえた他の啓発物や HP を数多く見せていただけると、通常業務に本研修内容が落とし込みやすいのではないかと思いました。

・「赤は見やすい色」と疑わずに考えていたので，バリアントールをかけて見た時に衝撃をうけました。同じ赤でも白抜きにしたり，少しの工夫で歩み寄ることができると感じたので，今日の経験をもとに配慮できたらと思います。

・色弱者が割合的に多いことに驚きました。自分が見えている色基準で作成や会話をしているので，どんな色覚の人にも分かり易い取り組みをすすめていきたいです。

・実際にメガネを利用したり色弱の方に助言をうけることで，非常に今後の為となる研修となった。チラシを作ったり看板を作ることもあるので，今後に活かしていきたい。

・パワーポイントの資料もいただけると良かった。

・赤色は目立つ色だと思い込んでいましたが，黒にしか見えないかたもいらっしゃることを知ることができ，今後の業務に生かさねばと思いました。色のみではなく，他のデザインにおいても，誰にとっても分かりやすいデザインを心掛けたいと思います。

・見え方のちがいというものに気付くことが出来てよかった。

・赤と青が違うことを当然のように思っていて，当然使っていたことが通用しないことがわかり，ショックを受けました。色使いの難しさを実感しました。

・実際にバリアントールを使用して，体験できて実感できてよかったです。

・白抜き文字や太文字にすることで見やすくなることが分かった。他の研修では，太文字などを多用すると（一般の人にとっても）見づらくなる，情報が増えすぎて伝えたいことがぶれるという話を聞いたこともあるので，様々な意見を取り入れながらチラシなどを作っていきたい。

・色弱者の目線で周りの景色を見たことはなかったので，今回の講座は大変有意義でした。特にバリアントールを使って様々なチラシ等を見た体験は今後に生きていくと思いました。

・CUD について全く知識がなかったので大変勉強になりました。今日学んだことを今制作段階の広報誌に活かします。

・普段，PR や注意喚起でよく使う赤色が非常に見にくいことに衝撃を受けました。色を変えれば目立つ，見やすいという考えだけで止めず，文字のサイズや背景にも工夫できるようにしたいと思いました。カラーコピーすることを前提に原本の明度に気をつける必要があると思いました。

・他課のイベントチラシが CUD ができていて感心した。C 型の人の見え方で色あいよく，きれいにという視点で色をつかってきたが，今後 CUD の視点でどうか考えていこうと思いました。

・当然と思っていたことが違うこと。それを意識していくことが大切だと思いました。P 型，D 型の方の見え方を教えていただき，とても参考になりました。色のシミュレーション･･･活用していきたいと思いました。

・知らないことばかりで大変勉強になった。色の違いを考慮することは難しく感じたが，言葉や強調表現などで補えることがわかった。業務で生かしたい。他の職員も学ぶ機会があれば受講するとよいと思った。

・作る側の主観で色を選択していたけれど，白黒コピーで明度を測るなどコントラストを意識しながら作製，色の選択をしていきたいと思う。

・チラシ，ポスターなどを作成するときにはカラーユニバーサルデザインの重要性を感じました。

・当たり前のように強調として使っていたものが全く強調にならないことに驚きました。誰もが見やすいデザインというのは大多数の C 型の人たちにとって，とならないよう，印刷物をつくるときには注意しなければと感じました。観光やイベントのチラシは目立つことが良い部分もあるので両立が難しいですが，今日気づいたことを生かしていきたい。

・今まで CUD に関して知識がほとんどなかったので，とても勉強になりました。今後職場で役立てたいです。

・青色と黄色がすごく見易く，赤色が見辛かったのが印象的でした。

・よかれと思って色づけした資料も分かりづらい事が多いことを知った。

・20 人に一人困難と思っておられる方がいる事を知ることができた。

・今まで，はっきりした色は全てわかりやすい色であろうと思っていましたが，色弱者の方にとってはそもそも色の見え方が違う事がわかりました（赤は注意喚起に有効だと思っていましたが，黒と一緒だと見えなくなってしまうなど）とても勉強になりました。
・PC を使った研修があると良いと思いました。
・黄色と青色は見やすい。赤は黄色がかったものが良い。見やすさについて体験して感じることができて良かったです。「思いもしないことが気づけて良かったです」との言葉がありましたが，その通りだと思いました。
・バリアントールをつけてみて，こんな風に見えるのか，こんなに見づらいのかと驚いた。自分は身近に色弱の方がいたが，普段，色をつかった資料を作るとき特に意識することはなかった。見づらい人がいるかもしれないと頭に入れること，これが多くの人に広まると良いと思った。
・色弱者の割合の多さに驚きました。大多数が見やすい配色ではなく誰もが見やすい配色を心がける必要があると感じた。強調したい文言がある場合は，色を加える（特に赤はだめ）のではなく，アンダーラインや太字，大きい文字，白抜きにするなどの工夫が効果的であることが分かった。
・カラーユニバーサルデザインについて全く知らない職員が多いので，今後チラシや HP 等の広報活動する時に配慮するようにしていきます。
・実際に色弱者の見え方を体感でき，見え方にとても驚いた。CUD のポイントを押さえながら今後 HP の作成やチラシの作成に活かしていきたいと思う。
・当事者の方にきていただいたのは，とても良かったと思う。
・今まで意識をしたこともなかったので様々に考えさせられた。本日学んだ，また気づけたことを生かし，より多くの人に伝わり易い印刷物等を作成したい。特に当課は生命や生活に直接かかわるものではないけれど，ならばこそ丁寧に作りたいと思った。
・色覚の個人差は人と比較しなければ分からず，今回の講座は自分にとって新しい見識を得られる機会でした。今回の知識やアプリを利用してよりよいものが作れるよう努めます。
・色の見え方が違うという知識はあっても実感することがなかったがバリアントールを使って色弱の方の世界を体験することができ赤色が茶色に見えることが驚きだった。研修で色のシミュレーターアプリを教えてもらったので早速ダウンロードして CUD を意識した HP や資料作りに活かしていきたいと思いました。
・色弱者が職員におり、校正指示を出す際に使用するペンの色について意見を頂いていたが、赤・黄・青の3色では、赤も黒に見えたので、赤をメインとしていたが、青をメインとしたいと思います。
・色が全くちがって見えることについてこれまでの価値観では対応できないと感じた。かたちや大きさ等に配慮することや、役所の文書ルールをかえていくことも必要だと思う。
・友人に色弱の子がいます。服や山の木々の緑の話でくい違い、「何言ってるの、この人！？」と怒ったことがあります。見え方のことは言葉ではお互い伝えられないのであきらめていましたが、配慮がなかったと反省しています。
・バリアントール体験は大変驚きました。
・実際にバリアントールを使ってみると、日常生活でいかに自分が色に頼っているかを実感することができた。カラーで資料を作る際には、明度の差や下線など、色に頼らない方法でより伝わりやすいものを作りたいと思った。
・赤など自分が強調色だと思っていた色も人によっては違う見え方をしていて全然強調の役割を果たしていない場合があるということに驚きました。今後何かチラシやパンフレットを作る機会があれば、色に頼らず様々な視覚的工夫をして作製していけたらいいなと思いました。
・赤だから目立つわけではないと分かり、驚いた。色の明度やアクセントカラーで見やすくなると分かり、今後の資料作成時に生かしたい。
・今後チラシ等作成する時には、「色のシミュレータ」を使用し、確認していきたいと思います。
・色弱者の方が実際どのように見えているのかがわからなかったので、体験を通じて理解できた事が良かった。
・今までのチラシ作りを振り返って、見にくい物を作っていたかも、と反省しています。
・広報紙やホームページなど市民向けの発信媒体に、どのような色使い、表現をするべきか非常に参考になりました。直せる部分から直していきます。
・メガネをかけてみて、赤色が区別しにくい事が驚きでした。色のシミュレーターアプリも使ってみたいと思います。色弱の方だけでなく誰もが分かりやすい資料作りが大切だと実感しました。ありがとうございます。
・担当業務において温水プールを建設していますが、その中の案内表示等、CUD を意識、配慮したものにしていきたい。
・必要以上に色を分けると逆にわかりづらくなると感じた。
・絵画、広告等色を楽しむことは好きでしたが、今回の講座で色の見え方、ちがいを知ることができ、今後周りの方の事も考えて、色を感じて社会のために役立てていきたいと思いました。ありがとうございました。
・改善の手段や方法など多くのケースの提示があると良かったと思った。改善が必要なところはメガネをかければ分かるけど、どの様にしたら良いか、まだ知識も薄くわからないから。

・たまに、チラシ等作成したり、確認することがあります。一般的な視覚でみる「見やすさ」しか考えていませんでした。しかしこの研修で、全くちがう色でも同じような色に見えてしまう驚きが多くありました。今後はこの様な点にも気をつけ、誰もが分かりやすいように作成していくことが必要だと思いました。北名古屋でも、CUD 用のメガネが貸し出しできるようになると良いなと思いました。
・今後のパンフレット作成する際には、今日学んだことを意識していきたい。
・色弱の方の見え方について詳しく知ることが出来て良かった。
・赤が目立たないこと、青と黄は目立つことを気づかされました。今後は色弱者への配慮をしていきたいと思います。
・実際にバリアントールをかけて体験したことで、身をもって知ることができた。また、色がたくさんある中からわかりやすい5色だけを選ぶことさえ難しかったのは、びっくりした。体験することで気づきが増えるので良い時間だった。
・知識としても非常に有益でした。今後注意して業務にも生かしていきたいと感じました。
・これからすぐに生かせる内容ばかりで、とても勉強になりました。

・色弱で色の区別がここまで困難という認識がなかったので、今後参考にしていきたい。
・バリアントールがあると簡単にチラシの色のチェックができるので、貸し出し用に1つあるといいと思った。新人研修でカラーユニバーサルデザインの研修があるといいと思いました。
・当事者の方が実際に見ながら意見を言ってくださったのがとても参考になった。また見え方の画像で野菜を見た時にちょっとドキッとした。色の識別の重要性を改めて感じた。
・身近に色弱の人がいないため、これまで色弱の方の見え方に関心をもつことがなかった。しかし男性が 20 人に 1 人色弱と知り、もう少し分かりやすい色づかいが必要だと感じた。子ども達の中にも気づいていないだけで色弱の人がいるもしれない。その子たちでも見えるように色を考えていきたい。
・おり紙を色ごとに分ける際、ピンク色が全くわからなかったことに驚きました。全ての人にとって見易いものをつくることは難しいですが、とても大切なことなので、今日きいたことを実践していければと思います。
・パステルカラーが見分けづらいことや、赤字があまり強調にならないことが特に印象的でした。色のシミュレータ等を利用していきたいと思います。
・日常生活の中で色に頼って行動していたことが多かったので、今回の色弱や色覚という言葉を知り、もっと理解が深まる世の中になればよいと感じました。
・自分は見分けがついても、他の人が見ると見分けがつかないことがあるということを今後意識していきたい。
・日常生活の中で色弱の方が困っていることが多いと知ることができました。自分のちょっとした心づかいで市民の方に伝わりやすい（困り感のない）生活を提供することができるとわかりました。自分が当たり前だと思っている日常で、他の人からすると当たり前ではない日常だということを意識し生活したいと感じました。焼肉の焼け具合が分かりにくいとはじめて知りました。
・色弱の方は身近に多くいらっしゃること、黒字の中の赤字は強調にならないことなど新たな気づきや発見が随所にあった。バリアントールを使用した色弱模擬体験はとても貴重だった。発行物作成の際には、色弱の方の見え方 check は確認作業の 1 つに加えることもよいのではないかと思う。
・分かりやすい配色や資料作成時の工夫ポイントなど普段の業務で早速活かすことが出来そうな内容だった。資料作成時に今回学んだ内容を活用していけるといい。
・赤と緑がこんなに見分けがつかないとは思っていなかったです。
・色弱について話には聞いていたが、実際に見え方を体験したのは初めてであった。カラーバリアフリーということを初めて知り、それ用の商品が使いやすそうだと感じた。
・PC ワークでカラーユニバーサルデザインに配慮したグラフ作りをした際に、色弱者の見え方に気を取られすぎて、そうでない人から見たときに見えづらい配色なってしまった。全ての人にとって分かりやすい資料作りがとても難しいと実感しました。
・災害時など緊急時に直感的に認識できる配色について、詳しく講義頂けるとよかったと思います。貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。
・バリアントールを通して見ると、色の見え方に違いがあることがより分かりやすくなるので大変実感できました。
・フィルタを通して色紙を仕分けしてみて、普段は全く異なると思っていた色がほとんど同じ色に見えることを体感できたのが良かったです。市民や保護者への（庁内での）資料を作成する際に、色の見え方について配慮したいと思います。
・色づかいを工夫することで色弱者の方にも分かりやすくできることは良く分かりましたが、色づかいを実際やってみてその難しさを痛感しました。今日学んだことを職場に取り入れていきたいです。
・消防の設備等は赤が多いが、色弱の方々には見にくいことに気づけました。

・シミュレーションツール等今後役立てていきたいです。
・最後にお話のあった赤と緑の区別がつかず充電やテレビのオンオフが分かりづらいと言われたことは、なるほどと思いました。信号（緑・赤・黄）から見やすくなるといいと思ったのですが、世界共通認識は変えるのが大変かもしれないですね。
・普段の生活の中で、色弱や色覚を意識したことがなかったので、新しい考えを増やすことができました。バリアントールを使ったことで、色弱の方々が色によってはとても見にくいということがわかりました。今回の講義の内容を少しでも意識して業務に取り組んでいきたいです。
・色のシミュレータのスマホアプリ入れました。少しずつ気をつけたい。長年使う計画書作成は要注意だなと思いました。
・色弱という言葉は知っていたが、どういった見え方をしている等は考えた事がなかったので、本当によい勉強になりました。今後、業務で活かせる知識が得られる研修でした。

以上

（2022/08/15 作成）